

# 虚子記念文学館投句特選句・令和七年二月

稲畑廣太郎 選

虚子が守る次郎左エ門雛かな

兵庫 藤井啓子

春灯の照らす明治のホトトギス

京都 西村やすし

心竹の朱墨のエールあたたかし

兵庫 涌羅由美

雪男には素通りの雪女

奈良 河村久美子

春を待つ君の指先駅ピアノ

三重 池本準一

深夜二時過ぎし無言のちゃんちゃんこ

愛知 海神瑠珂

薄氷のひかりひきつぐ蕾かな

東京 桜鯛みわ

盆梅に見ゆる古木の気品かな

兵庫 山岸正子

転校の友へ寄せ書きクロツカス

愛媛 星月彩也華

梅咲いて石山寺へ道は坂

滋賀 太田 慈

(青少年)

# 入選句・令和七年一月

復興を兆す市場に春近し	石川	白根寿子	遺灰まだぬくし霜夜は六面体	大阪	押見げばげば
灰と二分色を兆して邸の梅	大阪	谷本房子	志望校悔し涙の草団子	埼玉	小田毬藻
一つ目に気づき辺りの露の臺	兵庫	黒田千賀子	気掛かは息子のバレンタインデー	兵庫	中村恵美
汀子師のあふるる句集冬ぬくし	兵庫	吉田知子	童宮の庭彩りし若布やも	香川	葛原由起
これほどの灯り戻りて阪神忌	兵庫	高野さち	義理チョコはもう死語バレンタインの日	大阪	西尾浩子
サーファーの波頭に躍る寒の入	兵庫	上岡あきら	ダーリンにサンクスバレンタインデー	香川	奥村里
大寒の底ひに灯し俳句練る	兵庫	小柴智子	待つてゐる君へバレンタインデー	京都	木村直子
走り終ふドクターイエローに冬日	大阪	勝山禮子	年の豆だけで満たされゆく齡	兵庫	奥田好子
万博へ延びる新駅春近し	大阪	杉山千恵子	底の鯉泥巻あぐる春の水	兵庫	槌橋眞美
花街のまだ覚めやらず春障子	奈良	山口廣世	雪礫隠し笑顔の近寄り来	石川	辰巳葉流
指先に移り香豊か露の臺	兵庫	藤丸千香子	バレンタインデーの二人の予約席	兵庫	山田佳乃
せせらぎに揺り起こされし露の臺	大阪	ふじもと言果	初音より摩耶六甲の目覚かな	兵庫	池田雅かず
春の水脈広げ水上バス発車	兵庫	山之口倫子	カルストの岩割る気合下萌ゆる	鳥取	前田千
二月の海鳴のふと軽き時	兵庫	川村ひろみ	国破れ国分寺址の草萌ゆる	兵庫	入谷千恵子
二ヶ月の畑を耕す夫を呼ぶ	奈良	堀田ますみ	手を上げて先生の撒く豆貰ふ	兵庫	辻桂湖
函館の土の匂ひの露の臺	奈良	堀田建夫	叱られに佐助の庭訪ふもまた	兵庫	永沢達明
八十路にて青春謳歌日脚伸ぶ	兵庫	森岡喜恵子	主は全て赦し賜へる絵踏かな	香川	三宅久美子
紅梅の蕾ほんのり故師の笑み	石川	牧野妙子	予感あるかにその庭の下萌ゆる	兵庫	玉手のり子
合格を果たせし子等の梅日和	大阪	林曜子	豆を撒く年男にはあらねども	兵庫	岸川佐江
虚子館へ二月初日の句会かな	大阪	立入宮子	仮の世といへど哀しき絵踏かな	徳島	多田まさ子
巫女の顔福呼びさうや春隣	兵庫	吉村玲子	朝には連れなくなりし湯婆かな	大阪	若林友子
臘梅の咲く家ときき訪ひくれし	兵庫	田邊育子	癒えし児の寝息正しく寒明ける	京都	前悦子
家計簿を始むるに良き二月かな	兵庫	村原美可	師の庭に春の来てゐる風の色	兵庫	池田文子
眩しさの光まさしく春のもの	兵庫	藤本公子	寒明や母きびきびと動き出す	大阪	須知香代子
			君子蘭の鉢のテラスや子の新居	大阪	河辺さち子

ふるふるとしづくの乱れ寒椿	愛知	水越晴子	薔薇窓のマリアの眸や汀子の忌	愛知	小野 薫
初虹や廃村の上高く濃く	奈良	堀ノ内和夫	春の海曙光を曳きて戻り舟	神奈川	平野孤舟
ファーストシューズふはりと乗せて草萌ゆる大阪 椋本望生	大阪	椋本望生	土手焼きにコップのポン酒春の宵	奈良	豚々舎休庵
昨日より柔き日差しや寒明けて	兵庫	深尾真理子	春の雪いたむ心を繕ひぬ	兵庫	惠島祥一朗
青空の戻る早さも春の雪	京都	山崎貴子	標識に雪崩注意の山路駆る	石川	辰巳昌彦
虚子館に二月の光安らけし	兵庫	伊東伸子	倒木の力集めて芽吹かな	和歌山	中島紀生
マッチングアプリに非ず猫の恋	兵庫	岩水ひとみ	せせらぎの音に遊べり猫柳	兵庫	阿曾宏之
この頭痛臘梅のせいとは言へず	大阪	北上美佐子	夙川にころがる瀬音春近し	兵庫	伊集院秀樹
新しき闇を断ちきり野火走る	兵庫	田村惠津子	街は春四角いセダン羽ひろげ	滋賀	太田怒忘
汀子師恋ふ次郎左衛門雛座る	兵庫	平田 惠	老梅の命滾らせ香のほのか	神奈川	斉藤苑子
うす氷歪み模様の鯉ゆらり	兵庫	松本 敬	道後の湯偉人を偲ぶ椿の夜	神奈川	小林 心
嘘つきし身に梅の香の逃げやすし	兵庫	岩鼻絹子	碁会所のチラシ吹き飛び春一番	兵庫	太平楽太郎
弱き目に早春の日のやはらかし	兵庫	高橋純子	節分や母に切り分く恵方巻	神奈川	金子三奈乃
汀子師を偲ぶお庭や浅き春	新潟	安原 葉	下萌や幼子の履く母の靴	兵庫	道中義臣
耳に来た日差しの音よ露の臺	静岡	いたまき忠	春の菜の「あいがけあり」のAとB	大阪	仁喜和彦
春立つや足指ほぐす湯の煙	兵庫	高市敦之	下萌や手術の後の第一歩	兵庫	山崎渺美
春泥や恋占いの長き列	兵庫	福田光博	盆梅や蕾を梢にふふみをり	兵庫	西尾登志子
ビストロのシェフは口重沈丁花	兵庫	風待ラテ	申告を終へし安堵や花すみれ	兵庫	三木雅子
早春の落日のまた美しく	兵庫	西村みどり	下萌や五センチほどの風の吹く	兵庫	今井哲子
早春の庭ほがらかに番鳥	兵庫	二瓶美奈子	蹲に浮かぶ深空や枝垂梅	東京	宮村土々
早春やアロマ講座の申し込み	兵庫	小林昌子	梅咲くや今はむかしの里内裏	兵庫	キートスばんじょうし
早春や頬に肩へと風こつん	兵庫	日下富貴子	祈りより言の葉生るゝ汀子の忌	神奈川	進藤剛至
大銀杏倒れ伏すとも実朝紀	石川	伊東弥太郎			
他校より文通してと卒業す	京都	杉森大介			
ポケットの若布小出しに登用す	熊本	貴田雄介			